

第 35 回日本自然災害学会学術講演会に参加しました(2016/9/20-21)

テーマ：災害科学

場所：静岡県地震防災センター（静岡県静岡市）

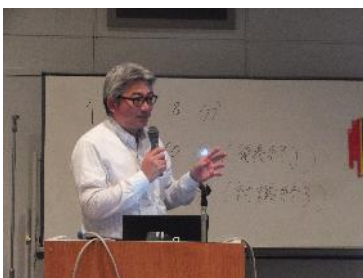
9月20日(火)～21日(水)の2日間、静岡県地震防災センター（静岡県静岡市）で日本自然災害学会が主催する「第35回日本自然災害学会学術講演会」が開催されました。同学会は、その名の通り、自然災害科学の研究の向上と発展につとめるとともに、防災・減災に資することを目的としている学会であり、自然災害に関するあらゆるジャンルのテーマを対象としています。年に1回、学術講演会が行われ、研究発表による情報共有や交流が行われています。当研究所からは、佐藤健教授、佐藤翔輔助教（情報管理・社会連携部門）、山下啓助教、林晃大助手（寄附研究部門）、保田真理助手（災害リスク研究部門）が参加し、学術講演会の査読セッションで1件、一般セッションで7件の研究発表を行いました。査読付き論文セッションとは、同学会査読論文誌「自然災害科学」と同様な審査過程を得て受理された論文について発表されるセッションであり、特別号として査読付き論文が発行される対象の発表になります。各発表者の講演題目等は次の通りです（著者名は筆頭者と研究所構成員のみ記載。下線は研究所構成員。※印は元研究所構成員）：

【査読付き論文セッション】

- 佐藤翔輔、今村文彦：遠地津波と大雨にともなう複合災害対応の分析—2015年9月チリの地震による遠地津波と大雨に対する石巻市役所の事例—

【一般セッション】

- 保田真理、野内類、邑本俊亮、今村文彦：自然災害の被害軽減に有効な減災意識育成ツールとしての防災・減災スタンプラリー
- 林晃大、山下啓、今村文彦：仙台平野における東日本大震災の被害実績に基づく海岸林の津波リスク軽減効果に関する考察
- 山下啓、菅原大助※、今村文彦ら：津波氾濫・土砂移動・漂流物移動の平面2次元統合モデルによる津波複合被害の再現計算—東日本大震災の宮城県気仙沼市への適用—
- 栗田哲、源菜正人ら：多点微動測定に基づく3.11地震で被災した建物の振動特性と損傷の関係
- 佐藤健、桜井愛子、佐藤翔輔、北浦早苗ら：東日本大震災からの復興過程における地域ぐるみによる復興教育の実践とその評価—石巻市立鹿妻小学校の復興マップづくりにおけるインタビューカードの分析—
- 佐藤翔輔：子ども世代における東日本大震災の記憶の現状—東松島市での2つのワークショップから—
- 戸川直希、佐藤翔輔、杉浦元亮、今村文彦：洪水を想定した避難訓練前後における「生きる力」の評価—宮城県巨理町中泉地区の事例—



佐藤健教授



佐藤翔輔助教



山下啓助教



保田真理助手



林晃大助手

文責：林晃大、山下啓（寄附研究部門）、佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）